

ぶながやっ子ハウスの自然体験(環境教育)

世界自然遺産に登録されるほどの貴重で豊かな自然に囲まれて暮らしているにもかかわらず、大宜味村の子どもたちは普段の生活の中でほとんど自然と関わりがありません。海や山で遊んだことがない子どもたちも少なくはありません。一番知っていて当然の地元の子もたちが、やんばるの自然のことをほとんど知らない、という現実を何とかしたい。そんな思いから、ぶながやっ子ハウスでは情操教育の一環として、地元の子もたちの自然体験(環境教育)を行っています。



ぶながやっ子ハウスが目指す環境教育は、決して専門的でアカデミックなものではありません。昔の子どもたちの様に遊びながら自然を体感させて、生きものたちを身近に感じさせることを最初の目標としています。子どもの頃に慣れ親しんだ経験を通して、環境保護について考えてもらいたい、とぶながやっ子ハウスは考えているからです。



ぶながやっ子ハウスの子どもたちは、生きものたちを捕まえようとはあまりしません。捕まえても、ほとんどはその場で逃がして帰ります。ぶながやっ子ハウスでは、生きものたちを捕まえるかわりに写真を撮ることを子どもたちに勧めています。



そんなぶながやっ子ハウスの子どもたちに、人気のある自然体験が「夜の生きもの観察会」です。日が落ちてからの夜の山や森に入ることは、子どもたちにとっては滅多にできない刺激的な体験なのです。また、大宜味に住んでいる子どもたちでも見たことのない珍しい生きものと出会うことができる貴重な体験でもあります。



「夜の生きもの観察会」に参加した子どもたちは、図鑑やテレビでしか見たことのない生きものたちを自分たちの目で見つけることによってやんばるの自然を体感し、自然の大切さを理解します。そしてそれらを通して、やんばるの自然に囲まれて暮らしている自分たちの生活を誇りに感じてほしい、とぶながやっ子ハウスは願っています。



2023. April

ぶながやっ子ハウス代表:上原 幸彦